

雑 報

小田稔氏および理論研

マルセル・グロスマン会議賞授賞

6月24日から29日まで京都国際会館にて、一般相対論研究のための第6回マルセル・グロスマン会議が開催されたが、その際マルセル・グロスマン会議賞が小田稔氏(理化学研究所)及び理論研(現京大基研宇治)に授与された。

アインシュタインの友人であり協同研究者であったマルセル・グロスマンの名をもつこの会議は3年に一度開催されてきた(一般相対論, 宇宙論, 相対論的場の理論の分野)国際会議である。賞は第4回会議においてもうけられ, 今回は3回目の授与であった。1つの団体賞と2つの個人賞(理論及び実験)からなり, 今回, 団体賞は理論研(受領者富田憲二)に, 個人賞は小田稔氏とホーキング教授にあたえられた。これまで個人賞は, ノーベル賞級の学者サラム, ホイーラ, フェアバンク, 早川幸男に授与されており高いレベルをたもっている。

小田稔氏は宇宙科学研究所において, X線天文学の先駆的な研究を行ない, その後の日本のロケット, 人工衛

星による宇宙物理学研究に多大の貢献をした。とくに, すだれコリメータの開発, それによるX線源の構造決定の研究は有名である。X線源にはブラックホールの候補がかなりあり一般相対論との関わりも深い。現在理化学研究所の理事長として活躍されている。

理論研は理論物理学研究所の略称で, 三村剛昂広大名誉教授を中心とする研究者による波動幾何学の研究から出発し, 1944年広島文理大学(広島大学の前身)に設置された。しかし1945年原爆により所員は死亡または原爆症になり, 建物は崩壊し, 研究は中断した。第二次大戦後は, 広島県竹原市へ移り, 一般相対論, 宇宙論, 相対論的場の理論の研究において多くの貢献をした。とくに, 竹野兵一郎, 成相秀一, 木村利栄の諸氏らの研究成果には優れたものが多い。1990年6月に京都大学基礎物理学研究所と統合し, 同名の新しい研究所(所長長岡洋介教授)となった(英語名は Yukawa Institute for Theoretical Physics)。理論研時代の4部門は新しい基礎物理学研究所の4部門として引き継がれ, 目下, 京大宇治構内の建物において研究をつづけている。しかし近い将来に北白川の構内に統合した庁舎を建てるべく準備が進められている。

富田憲二(京大基研)

天体観測専門誌

天文ガイド

11月号 定価620円(税込) 10月5日発売

ハワイ・マウナケア山頂での
皆既日食

『胎内星まつり』に
集まった望遠鏡の紹介

沼澤茂美氏による散光星雲の紹介

『星雲の造形』

ニューフェイステスト

望遠鏡発達史

■11月の星空 ■11月の天文現象観測資料 ■観測ガイド(流星ガイド・彗星ガイド・惑星ガイド・惑星の衛星ガイド・小惑星ガイド・星食ガイド・小惑星の食ガイド・接食ガイド・人工天体ガイドほか)

定価は税込みです

新透視版

星座
アルバム

【秋・冬編】

藤井旭著
定価3300円

初心者の人たちに星座の形を理解してもらうため, 星座の写真の上に星座の絵を描いた透明なビニールシートを重ねた, わかりやすいユニークな本。星座絵は24枚。

誠文堂新光社 受注センター(練馬支社) 東京都練馬区豊玉上2-6 電話(03)5999-5121 FAX(03)5999-5120
本社 東京都中野区弥生町1-13-7 電話(03)3373-7171 FAX(03)3373-7100